

スタジアム整備のあり方検討委員会

第2回資料

秋田県観光文化スポーツ部
スポーツ振興課

平成29年8月31日

1 第1回検討委員会のまとめ

第1回検討委員会では、スポーツの振興はもとより、少子高齢化が進展する中、県民の健康増進やまちづくりなど将来の秋田の活性化という視点からも、スタジアム整備を肯定する意見が多かった。このため、第2回目以降は、新スタジアムの建設を前提とした議論を進める。

【各委員の主な意見】

望ましい姿の意見

- 多くの感動や秋田を元気にする目的が果たせるスタジアム。
- 秋田のまちづくり、秋田の未来、秋田の子どもたちのためのスタジアム。
- 多くの方が集い、賑わいの創出や地域活性化につながっていくスタジアム。
- 本県が抱える少子高齢化などといった課題を逆手に、健康を発信できるスタジアム。

賛成意見

- 18万人の署名や選手・チームのモチベーションのためにもスタジアム構想を進めてもらいたい。
- 少子高齢化、人口流出と暗いニュースが多い中で、今住んでいる子どもたちの将来のために我々が何とかしなければならない。
- 観光で考えると秋田にはなかなか武器がない。一つ象徴的な良いスタジアムができれば新しいコンテンツになる。知恵を出さないと、今負けている秋田が逆転する契機にはならない。

慎重意見

- 機運で造るものではなく、なぜこの時代に、秋田県にスタジアムが必要なのが明確にならなければならない。
- これからの地域活性化の柱になれるかどうかの検討が必要。
- 本来であれば自分たちで募金活動を行い、そして行政に支援を求める。そこを目指してやるという姿があってもよい。

今後の方向性の意見

- 「スポーツ立県あきた」を掲げていることから、秋田のスポーツ資源全体を考える議論も必要。
- 秋田県のニーズの合った正の価値に転換することが重要。
- スポーツを通して健康寿命日本一を目指すために何ができるのか、その一つとしてスタジアムを整備するとなれば、それに向けてどのような役割を果たすことができるのか考えていく必要がある。
- 最初にコンセプトを決めた上で議論を進めていくべき。
- 高齢者にとっても何らかのメリットが必要。
- スタジアム整備の意義をしっかり共有して進めるべき。
- 秋田の冬をどうするか考えないと、サッカー、ラグビーだけではもたない。
- サッカーオンリーは、現実的ではない。

望ましい
姿の意見

賛成意見

慎重意見

今後の
方向性の
意見

コンセプトづくりのための
キーワード

地域の活性化

賑わいの創出

健康寿命
日本一

少子高齢化

人口流出

新しい
コンテンツ

など

2 事前調査票の各委員の主な意見

付加する機能

- ホテル、温泉、クリニック、スポーツジム、飲食店、大型スーパー、コンビニ、教育機関、福祉施設、図書館、住基ネット、会議室、社交場、ファンショップ、コンベンションホール
- 秋田ノーザンハピネッツアリーナ
- 北都銀行バドミントン部の専用体育館
- ランニングコース

規模

- J2基準の10,000人
ただし、J1スペックに増設可能な設計含む
- バスケもできる複合型
- ドーム型
- BBの観客動員数・収益構造をベースとして、自ずから適正規模が定まるはず

場所

- 秋田市 市街地
- 秋田市 市街地以外
- 秋田市内
- 問わない
- 駅や空港から近い場所

財源

- 募金、ファンド、ふるさと納税、寄附団体の設立等
- 国の補助
- 建設債
- 行政（一財及び地方債）
- 行政主導であるが、企業・県民からの募金
- 関係市町村からの負担金
- 市や県の財源だけでは厳しいのでは
- 国の支援は可能か
- 将来世代への負担先送りの結論とならないようできる限るシビアな数字をベースにすべき

運営手法

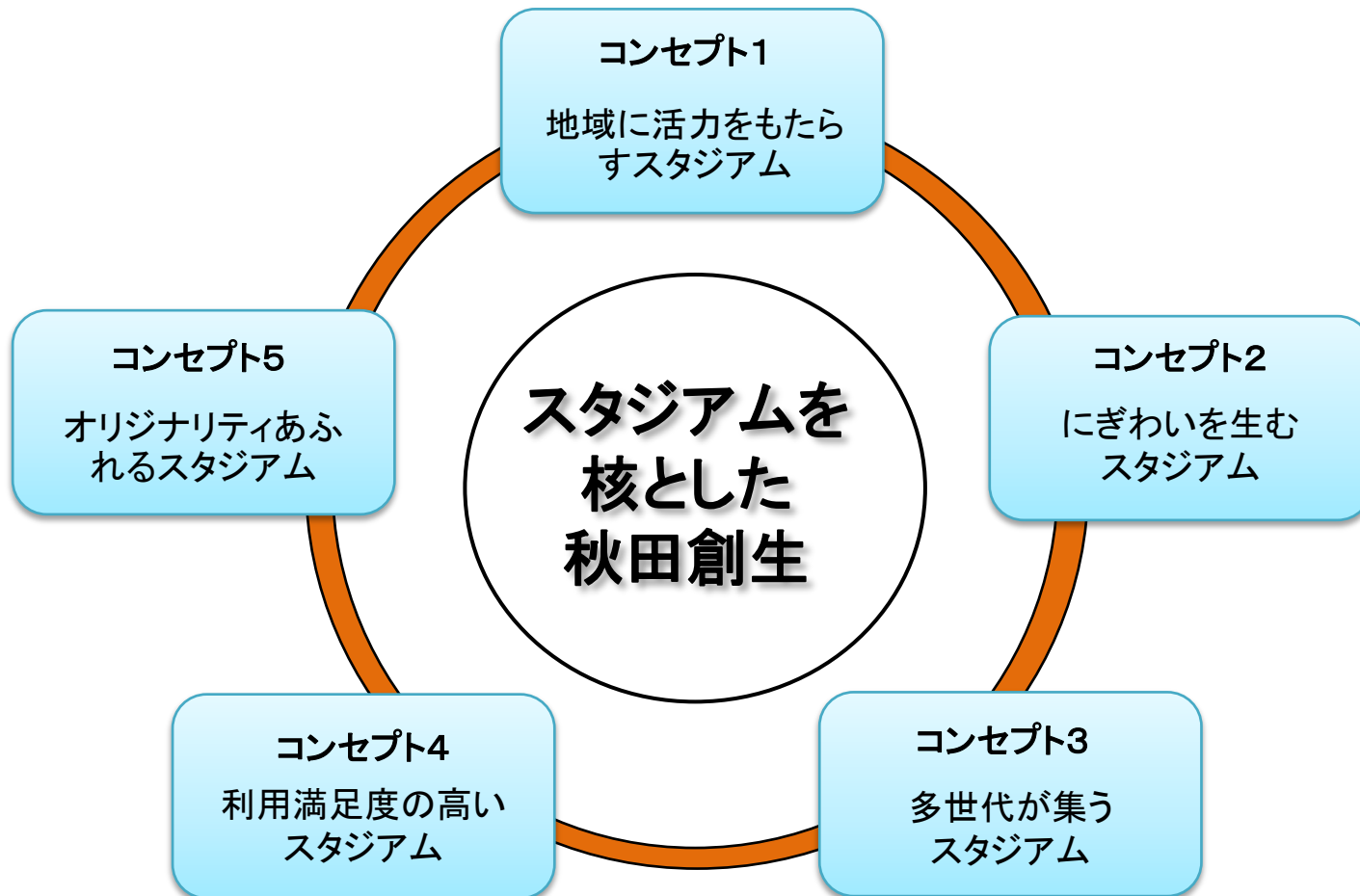
- 民間企業への指定管理
- クラブチームの運営会社による指定管理
- NPO団体
- 施設運営会社を設立
- 株式会社
- 指定管理は財政的に厳しいのでは
- 実現可能なプラン作成は必須

3 検討委員会の協議の方向性

- この度のスタジアム整備のあり方検討委員会は、ブラウブリッツ秋田の好成績や約18万筆の提出をきっかけとしてスタートしているが、第1回検討委員会や事前調査の意見をまとめると、ほとんどの委員が「スタジアムは秋田県が抱える様々な課題をスポーツを通じて解決するための拠点となるスタジアムであるべき」とする意見が大勢を占めていた。
- そのため、検討委員会では、今後、秋田にとってどういうスタジアムが必要なのかということについて、一定のコンセプトのもとで、規模や機能、財源、場所などについて、基本的な考え方や課題等について検討し、整理する。

4 コンセプト(案)について

～秋田が抱える少子高齢化や人口流出などといった課題を、スポーツを通じて解決するための拠点となるシンボリックなスタジアム～



<例>

コンセプト1 地域に活力をもたらすスタジアム

- 飲食、物販、宿泊等、地域振興に貢献
- 交流人口の拡大により地域活性化に貢献

コンセプト2 にぎわいを生むスタジアム

- 試合以外にも様々なイベント等に利用可能
- スタジアムを中心とした周辺施設との連続性

コンセプト3 多世代が集うスタジアム

- 子どもから高齢者まで「みる」「する」「ささえる」を体感
- サッカー、ラグビー以外にも利用可能

コンセプト4 利用満足度の高いスタジアム

- 上質な臨場感や躍動感を体感
- 選手と観客の利便性

コンセプト5 オリジナリティあふれるスタジアム

- 気軽に利用でき健康寿命日本一に貢献

5 機能、事業主体・財源、場所等について

1 機能をどうするか

- 1 規模・仕様
- 2 付加機能

2 事業主体・財源をどうするか

- 1 事業主体
- 2 国庫補助、助成
- 3 募金、寄附金
- 4 その他

3 建設場所をどうするか

- 1 市街地
- 2 郊外
- 3 準郊外

4 運営主体をどうするか

- 1 公共
 - 2 民間
-

6 第3回目検討委員会の予定

○第2回検討委員会までのまとめ

○課題解決に向けた対応策等の確認、検討

など